

Sir : men's international fashion journal (サー)

Amsterdam : International Textiles , [19--] - 1986

「サー」は、代表的なメンズファッション誌のひとつ。若い年齢層を対象にフォーマル、カジュアルともに紹介しているほかテキスタイル、ファブリックなど素材情報も充実している。創刊された年は明らかでないが、本館では1962年1号から、1986年に「インターナショナル・テキスタイルズ (International textiles)」に吸収されるまで所蔵している (若干の欠号あり)。

出版社はオランダのアムステルダムにヘッド・オフィスを持つインターナショナル・テキスタイルズ社で、同社では1933年から女性ファッション誌「インターナショナル・テキスタイルズ」を刊行しており、1960年からは姉妹誌「インテリア (Interior : international textiles)」も刊行しはじめている。その他にも「ファッション・フォーキャスト (Fashion forecast)」「ファッション・フラッシュ (Fashion flash)」等、多数のファッション誌を刊行している。

「サー」の本文は英語、フランス語、ドイツ語の3言語併記で、さらに巻末にはスペイン語、イタリア語、スウェーデン語、オランダ語の訳が付記されている。ただし巻末の翻訳は、1970年代にはスペイン語とイタリア語のみとなり、1980年代に入るとそれも掲載されなくなり、本文の3言語のみとなる。

当初は35×24cmの大判 (後に30×23cm) で、背をリングでとじた形態で刊行されていた。刊行頻度は季刊で、1982年3号からは年6回刊行となる。増えた2号分は、Supplement (増刊、別冊) とし

て発行され、コレクション情報やスポーツウェアが特集されている。また誌面も刷新され、その冒頭には見開きで雑誌の内容が紹介されている。新しい項目は、Supplementが年2号つくこと、ニットウェアの予測、ネクタイ・ベルト情報、9か月先までのファブリック予測、小売りのベストセラー情報である。その他の内容は、15か月先の長期予測、インタビュー、新進デザイナー情報、ストリートファッション、「サー」独自のコーディネート情報などである。

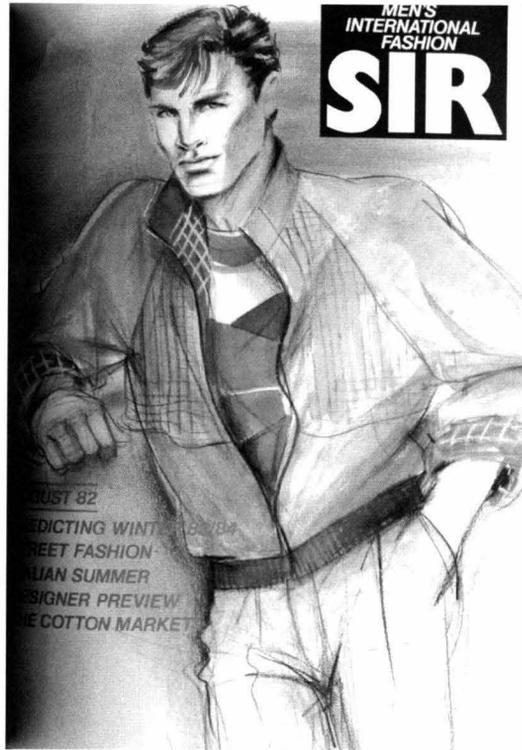
表紙のイラストはルネ・グリュオー (René Gruau) が、1962年から1982年4月 (上記の刷新号の前号) まで担当している。グリュオーは、イタリア生れの主にパリで活躍した著名なイラストレーター。1930年代から「フェミナ (Fémina)」「マリ・クレール (Marie Claire)」「ロフィシエル (L'officiel)」といったフランスの雑誌のほか、アメリカ、イギリスの出版物の仕事もしており、広告画も多数描いている。「インターナ



1963年2号表紙 グリュオー画

ショナル・テキスタイルズ」の表紙も、1946年から1986年までの40年間すべてグリュオーが描いている。

「サー」は1986年2号を最後に「インターナショナル・テキスタイルズ」に吸収され、しばらくは表紙に“Including SIR”と表記されていた。吸収後最初の「インターナショナル・テキスタイルズ」666号（1986年4月号）には、“Sir meets I.T.”のタイトルでその経緯に関する文章が掲載されている。いわく、「ここ数年、メンズファッションとウィメンズファッション間の重なり合う部分が加速的に増えてきた。この現象は一時的な“ユニセックス”ではなく、長期的な男女間のファッションの“解放”であるといえる。そこで2誌を合併することにした。これにより1冊で新しいトレンド情報をトータル的に見ることができ、情報量も多くなり経済的になったと自負している」と。（佐藤友治）



1982年8月号表紙 Irene Ennen画